

2019年度 筒井中学校 学校経営の方針

1 学校経営の基底

人間尊重の精神を基底とし、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する。そのため、教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てることを重要課題としながら、学校の教育目標が全ての教育活動に生かされ、生徒の知・徳・体が成長していくための学校生活を過ごすことができる教育の推進に努める。

2 学校経営の方針

学校の教育目標は、学校の教育活動全体を通して達成すべき目標である。その具現化に向けて全教職員で学校運営に参画し、協働指導體制での学校経営を推進する。

そして、「知・徳・体の調和のとれた生徒の発達」をめざし、生徒のより良き変容のために、「生きる力」をはぐくみ、生徒がそれぞれの夢や希望に向かって努力し、自己実現できるように、次に掲げる教育目標、努力目標、めざす生徒像、めざす学校像、めざす教師像を設定して、次代を担う「人づくり」のために筒井中学校の教育活動の推進に努める。

3 教育目標

「英知の風かおり、友愛の情ふかく、鍛錬の気みなぎる筒中生」

4 努力目標 (2019年度より一部改訂)

- ・ 学びへの興味・関心を持ち、自ら粘り強く取り組む生徒 (知)
- ・ 豊かな心を持ち、互いを思いやり認め合う生徒 (徳)
- ・ 心と体を律し、健康・安全に生活できる生徒 (体)

5 めざす生徒像

- ・ 授業に真剣に粘り強く取り組み、自らの言葉や表情で表現できる生徒
- ・ 明るい挨拶ができ、感謝の気持ちを表せる礼儀正しい生徒
- ・ 相手の立場を尊重し互いの良さを認め合い、責任ある行動ができる生徒
- ・ 学校行事や委員会活動、部活動に自主的・意欲的に取り組み、仲間と共に切磋琢磨し、自分の可能性を広げることができる生徒
- ・ 自らの進路を切り拓いていく生徒

6 めざす学校像

- ・ 安心して登校し、満足して下校できる楽しい学校
- ・ 落ち着いた学習環境の中で、学力向上に努める学校
- ・ 明るい挨拶と歌声が響き合う学校
- ・ 生徒が夢や希望を語り合える学校
- ・ 行事や部活動に一生懸命取り組む学校
- ・ 保護者、地域社会との連携を深め、地域に開かれた学校

7 めざす教師像

- ・ 授業で勝負することのできる教師
- ・ 生徒の夢や希望をはぐくむことのできる教師
- ・ 生徒との触れ合いを大切にし、一人一人の良さを認め、可能性を広げる教師
- ・ 厳しさの中にも優しさがあり、常に生徒と共にあり、共に学ぶ教師
- ・ 「教師力」のさらなる向上をめざし、自己研鑽に努める教師

8 指導の重点

(1) 学習指導の充実

- ・日常の授業改善に努め、授業の質を高める。
※改善の視点…生徒が自らの考えをもち、深め、表現する学習指導の推進
生徒一人一人に自らの考えをもたせる場と発問の工夫。深める場の工夫。
→「主体的・対話的で深い学び」
- ・標準学力テストや校内テストなどの結果分析を日常の指導に生かす。
- ・定期テスト・模擬テストの事前指導、事後指導を徹底する。
- ・個に応じた指導を工夫する。(TT、個別指導)
- ・学ぶ意欲の喚起と家庭学習の習慣化に努める。…家庭学習と一人勉強の検証
※基本的には、教科指導の中で内発的な動機付けにより学ぶ意欲を喚起する。
さらに、キャリア教育を充実させることで進路実現に向けた粘り強さも身に付けさせる。

(2) 生徒指導の充実

- ・自己指導能力の育成を目指す。
※生徒指導の3つのポイント「自己存在感」「共感的人間関係」「自己決定」
- ・望ましい生活習慣を定着させる。
(挨拶、身だしなみ、言葉遣い、時間を守る、時間の使い方の指導 携帯電話ネット依存)
- ・清掃がしっかりできるようにする。黙働の推進。
- ・万引きなどの非行を防ぐための善悪の判断力を高める。
- ・部活動に積極的に取り組ませ、心身を鍛え、道徳性や社会性を育てる。
- ・教師と生徒の心の交流に努める。
- ・自分の命や健康を自分で守る自己管理能力を育てる。
- ・日常観察、情報交換を密にし、生徒理解と教育相談技術の向上に努める。
- ・いじめ、不登校及び問題行動の未然防止、早期発見・早期対応

(3) 道徳教育の充実…道徳の教科化への対応

- ・生徒の実態を踏まえて、価値内容の重点化を図り、年間指導計画を作成する。
- ・担当する学年の全教師でローテーションを基に、全員で学年の道徳を担当する。
- ・道徳的価値の理解を深め、人間としての生き方を見つめさせる授業等を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。。
- ・心を動かす体験的な活動を通して、道徳性の育成に努める。

(4) 特別活動の充実

- ・学校生活上の諸問題に気づき、生徒自らの力で問題解決に取り組み、明るく充実した学校生活を送ろうとする態度を育てる。※新学習指導要領の強調点の一つ
- ・生徒の自主性、自治性を助長する生徒会活動や各委員会の活動を充実させ、活性化を図る。→そのための「場と時間」の設定・工夫
- ・学校行事においては、生徒会活動との関連を踏まえたねらいを設定し、生徒の自主性、自立性を育てる。(真のリーダーの育成及びリーダーの集団化)
- ・役割を与え、やらせて育てる。その際、事前指導や心構えの指導を充実させる。

(5) キャリア教育の充実

- ・全体計画をもとに、3年間を見通し、将来を見据えたキャリア教育の推進を図る。
- ・総合的な学習の時間との関連を図り、進路選択能力や自らのライフプラン・生き方を考える力を育てる。
- ・進路関連資料の収集、整理と進路相談の充実に努める。
- ・希望する職種に就くための綿密な道筋をよく調べさせる。
- ・総合的な学習の充実

(6) 研修の充実

- ・上記の(1)、(3)、(4)、(5)の充実がなされるための研修を充実させる。

- ・校内研究の焦点化と具体化に努め、全教科における相乗効果を図る。
- ・授業技術や授業の質を高めるために、校内研究会の持ち方を工夫する。
- ・定期的に互いの授業を見せ合ったり、外部にも積極的に授業公開をする。
- ・研修等の伝達を適宜行い、研修内容の共有を図る。
- ・小・中・高等学校との連携を図り、12年間を見通した授業の工夫に努める。
- ・研修等の伝達を適宜行い、学校ファイルサーバーの活用等で研修内容の共有を図る。

(7) その他

- ・危機管理体制の構築と安全への意識高揚
※事故やケガ防止意識、健康管理への意識高揚、ネット関連の危機管理
- ・朝の読書を行い、豊かな心を育成し、落ち着いた環境で一日を始められるように努める。(本を読む環境、この時代しかできない現状あり)
- ・学区小学校・高等学校との連携を密にし、中学校での指導に生かす。
(小・中連携事業の活用)
- ・ボランティア活動の充実
※部活動単位や自主参加によるボランティア活動の推進
地域を大切にし、地域に感謝し感謝される経験による心の育成
- ・保護者や地域の方からの学校評価等を適切に実施し、教育活動の改善に努める。
※家庭や地域社会と連携した教育の推進